

基礎案での記載箇所		章項目	5. 2. 3	ページ	p.36	行	13行目
事業名	水量操作(ダム・堰の適正な運用を検討)						
府 県		市町村		地先			

●現状の課題

これまでのダム・堰の操作は、利水者に対して安定的な水供給を行うために一定の効果をあげてきたが、そのために中小洪水も貯留したことで下流河川の水位変動や攪乱は失われた。このため、ダム下流では、アユ等の餌料となる藻類の生育を妨げているなど生態系に影響を与えているところがある。

●河川整備の方針

できるだけ自然流況に近い流量が流れるように、治水・利水への影響を考慮した上で、水位変動や攪乱の増大を図るために、ダム・堰等の運用の検討を行う。なお、検討する際には、河川の攪乱機能の復元に向けた試験操作において、モニタリング及び評価を行う。

●具体的な整備内容

治水や利水への影響を考慮した上で、水位変動や攪乱の増大を図るために有効な操作方式や放流量等を検討し、試験操作を踏まえてダム・堰の適正な運用を検討する。

1)淀川大堰下流の汽水域の生物に配慮した放流量やアユ等の遡上を促す放流量及び有効な堰の操作方式等について検討する。

①淀川 淀川大堰

2)流況の平滑化等に伴う河川環境に対する影響を改善するために、水位変動や攪乱の増大を図る試験操作を実施し、適切な運用に向けて検討する。

①瀬田川・宇治川

瀬田川洗堰、天ヶ瀬ダム

②木津川

高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、布目ダム、比奈知ダム

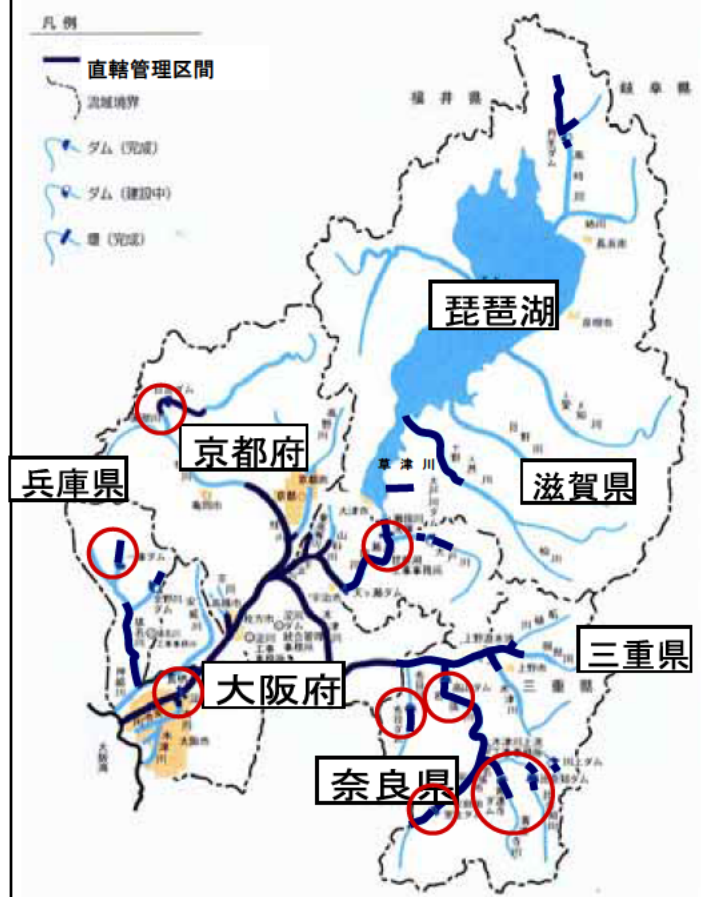
③桂川

日吉ダム

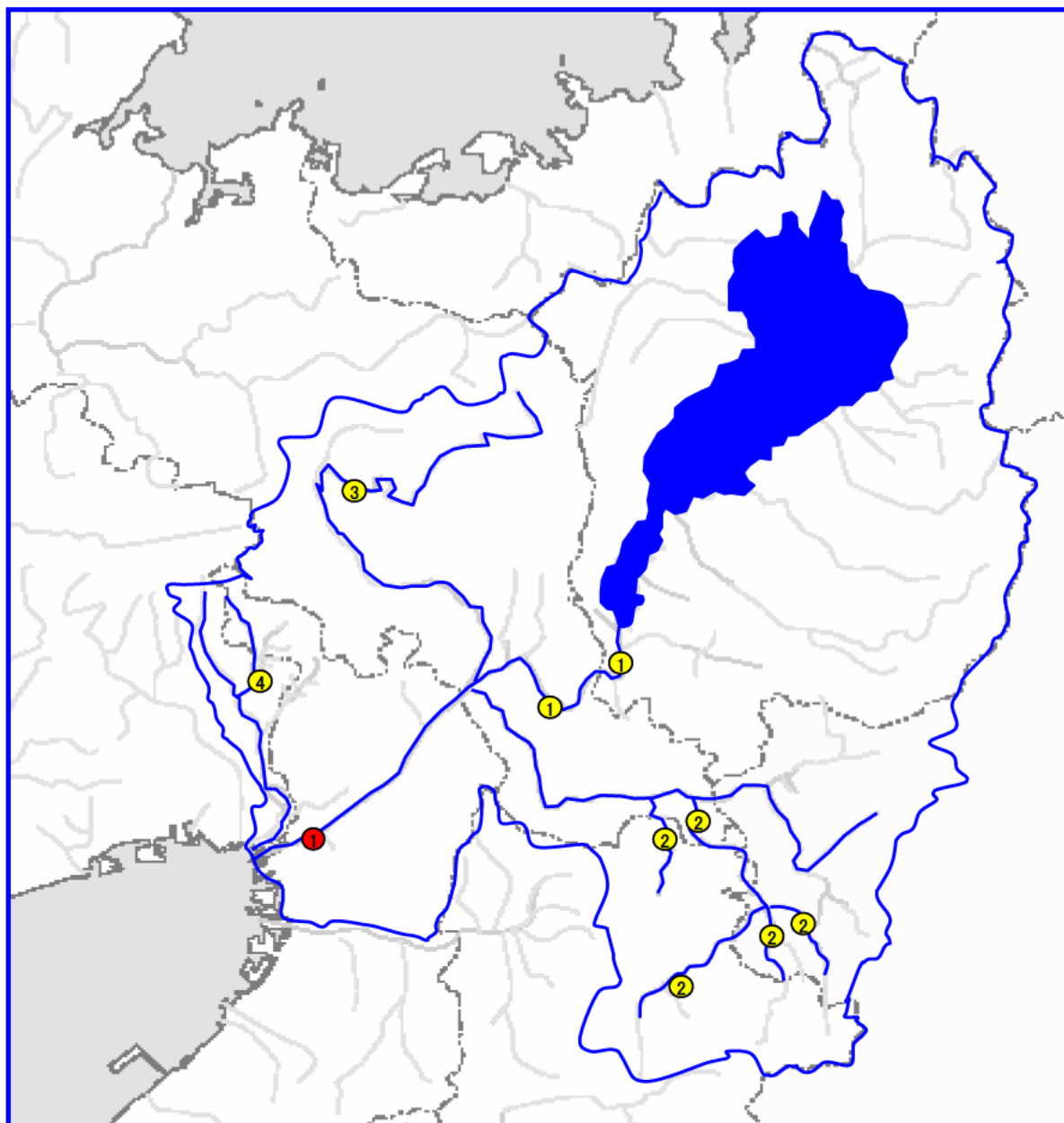
④猪名川

一庫ダム

●位置図



●平面図



凡例

- 汽水域の生物に配慮した放流量やアユ等の遡上を促す放流量及び有効な堰の操作方式等について検討
- 流況の平滑化等に伴う河川環境に対する影響を改善するために、水位変動や攪乱の増大を図る試験操作を実施し、適切な運用に向けて検討

※円内の番号は「具体的な整備内容」欄を参照。

●整備効果

◇淀川大堰

淀川大堰は河口から10kmに位置し、魚道機能の良否が通し回遊魚の遡上・降下を左右し、淀川本川及び木津川、宇治川、桂川に影響を与えるため、その運用見直しによる改善効果は広範囲に及ぶ。アユの遡上を促す放流や、堰の操作により水位変動や攪乱の増大を図ることにより、水生動植物の生態環境が改善される。

◇ダム

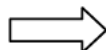
下流河川において自然の流況を回復する為、水位移行時にフラッシュ放流を行い、その効果を検証していく。

高山ダムフラッシュ放流状況写真 ダム放流量 40m³/s(平成17年4月27日実施)

有市地点



右岸下流より下流を望む(放流前)

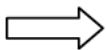


右岸下流より下流を望む(放流中)

笠置地点



左岸下流より上流を望む(放流前)

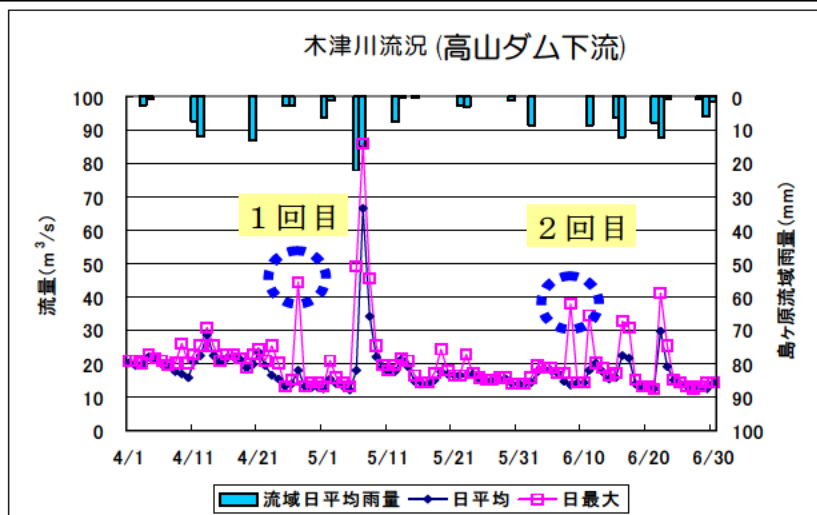


左岸下流より上流を望む(放流中)

フラッシュ放流の効果(例)

ダム下流の藻類のリフレッシュ、シルトの掃流が期待できる。

フラッシュ放流実施時の下流河川流況



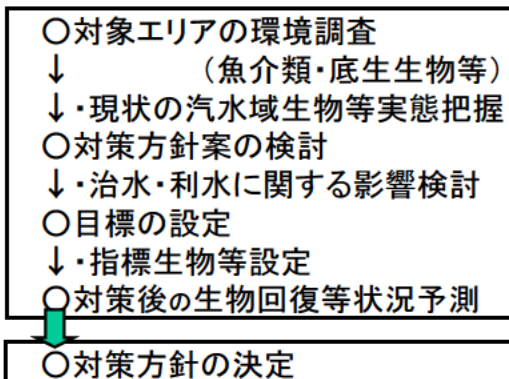
●提案理由(代替案含む)

◇淀川大堰

1. 箇所決定理由

淀川及び桂川、宇治川、木津川にとって淀川大堰の役割は大きく、通し回遊を行う魚類・甲殻類等の遡上の可否などは水系全体に及ぶものである。また、堰の運用操作はそれより上流約16kmにわたる湛水域において影響があり、攪乱の減少や水位変動の減少を改善することによるその効果は、広範囲に及ぶものである。従って、早急な実施に向けて検討を行う。

2. 検討手法



◇ダム

1. 提案理由

ダムの下流では、河川の水位変動が少なくなったことにより

- ・藻類のリフレッシュの機会が少なくなった。
- ・シルト分が堆積したままとなっている。

可能性があり、河川環境に影響を及ぼしていると考えられる。

2. 具体的な検討手法

